

インターナショナルカーボンプライシングの現状と課題 ～残余额分配型Internal Feeの提案～

須藤 翼

【要旨】

持続可能な社会の実現に向けた取り組みとして、企業内部で炭素に価格付けを行うインターナショナルカーボンプライシング（以下、ICP）が注目を集めている。ICPの活用方法として、炭素排出量に対して設定した炭素価格（10,000円/t-CO₂等）を乗じて資金を徴収するInternal Fee（内部炭素課金）が最も効果的とされているが、現状普及は進んでいない。先行研究では、ICPの導入とCO₂削減効果の関係について明らかにされているものがあるが、ICPの活用方法に関する研究事例は多くはない。

本論文では、企業分析を通じてICPの効果に関する検証をおこなった。そして、Internal Feeの普及拡大へ向けて先行導入事例を検討した上で、Internal Feeの新たな類型として残余额分配型を提案した。この残余额分配型Internal Feeが、CO₂削減を推進し、脱炭素化社会への移行に貢献することを期待する。